

# 四半期報告書

(第57期第2四半期)

光 株式会社 光製作所

---

# 四半期報告書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期財務諸表】	10
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7 第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月13日

【四半期会計期間】 第57期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 株式会社光製作所

【英訳名】 HIKARI FURNITURE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 安岡定二

【本店の所在の場所】 東京都荒川区東尾久4丁目7番1号

【電話番号】 03(3800)0111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 大久保直樹

【最寄りの連絡場所】 東京都荒川区東尾久4丁目7番1号

【電話番号】 03(3800)0111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 大久保直樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社光製作所大阪支社  
(大阪府大阪市東住吉区住道矢田5丁目5番27号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第2四半期累計期間	第57期 第2四半期累計期間	第56期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	4,235,543	4,655,334	8,834,501
経常利益 (千円)	1,118,573	1,238,405	2,484,935
四半期(当期)純利益 (千円)	850,907	819,568	1,421,651
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	10,129	5,559	21,974
資本金 (千円)	3,887,500	3,887,500	3,887,500
発行済株式総数 (株)	18,700,000	18,700,000	18,700,000
純資産額 (千円)	40,880,650	42,135,893	41,431,710
総資産額 (千円)	46,081,852	48,667,266	48,512,588
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	48.09	46.32	80.34
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	7.50
自己資本比率 (%)	88.71	86.58	85.40
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,575,742	1,152,413	4,515,127
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△1,723,390	△2,224,414	△3,928,292
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△133,628	△133,313	△134,632
現金及び現金同等物の四期末(期末)残高 (千円)	1,065,351	670,129	1,871,345

回次	第56期 第2四半期会計期間	第57期 第2四半期会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.93	19.87

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。  
 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社、親会社、関係会社15社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策により企業収益は改善し、設備投資の拡大や上向く雇用情勢等から個人消費も底堅く推移し、全体として景気は緩やかな回復傾向にありました。しかしながら、中国経済の減速懸念やアジア新興国の成長の鈍化等の海外リスクが存在し、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当家具・インテリア業界におきましては、厳しい状況の中にも業務用家具に回復の兆しがみえはじめました。

この結果、売上高は、4,655,334千円(前年同四半期の109.9%)となりました。

一方利益面におきましては、営業利益は、売上高が増加したことにより、1,217,582千円(前年同四半期の109.2%)と増益となりました。経常利益は、1,238,405千円(前年同四半期の110.7%)と増益となりました。四半期純利益は、前年同四半期に計上した固定資産売却益213,374千円の計上がなくなったこと等により、819,568千円(前年同四半期の96.3%)と減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①家具商品部門

家具商品部門の売上高は、2,195,906千円(前年同四半期の101.0%)と増加し、セグメント損失(営業損失)は、74,323千円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)51,110千円)となりました。

#### ②不動産賃貸部門

不動産賃貸部門の売上高は、新規稼働物件等もあり、2,371,783千円(前年同四半期の120.0%)と増加し、セグメント利益(営業利益)は、1,366,511千円(前年同四半期の109.8%)となりました。

#### ③その他

プラスチック成型品の売上高は、87,643千円(前年同四半期の103.3%)と増加し、セグメント利益(営業利益)は、2,655千円(前年同四半期の103.3%)となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

流动資産は、3,942,158千円となり、前事業年度末に比べ1,350,545千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金の減少によるものであります。

固定資産は、44,725,108千円となり、前事業年度末に比べ1,505,223千円の増加となりました。これは主に、有形固定資産の増加によるものであります。

### (負債)

流动負債は、1,466,545千円となり、前事業年度末に比べ504,028千円の減少となりました。これは主に、支払手形の減少によるものであります。

固定負債は、5,064,826千円となり、前事業年度末に比べ45,476千円の減少となりました。これは主に、長期預り敷金の減少によるものであります。

### (純資産)

純資産は、42,135,893千円となり、前事業年度末に比べ704,183千円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期累計期間末に比べ395,221千円減少し、670,129千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,152,413千円(前年同四半期累計期間の73.1%)の収入となりました。これは主に、税引前四半期純利益1,226,066千円、減価償却費564,499千円、仕入債務の減少336,342千円、法人税等の支払額610,222千円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,224,414千円(前年同四半期累計期間の129.1%)の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,946,498千円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、133,313千円(前年同四半期累計期間の99.8%)の支出となりました。これは主に、配当金の支払い132,647千円によるものです。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

特記事項はありません。

## (6) 主要な設備

① 新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

### a 新設

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				
			建物	構築物	土地 (面積m <sup>2</sup> )	その他	合計
永田町一丁目土地 (東京都千代田区)	不動産賃貸部門	賃貸用設備	—	—	1,644,809 (159.60)	—	1,644,809
篠崎光ビル (東京都江戸川区)	不動産賃貸部門	賃貸用設備	429,724	22,792	—	167,295	619,812

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	57,200,000
計	57,200,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,700,000	18,700,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株であります。
計	18,700,000	18,700,000	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月30日	—	18,700,000	—	3,887,500	—	4,947,500

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社光商	東京都荒川区東尾久4-7-1	11,214	59.97
株式会社久光	東京都北区田端6-4-2	2,156	11.53
株式会社久伸	大阪府大阪市生野区田島5-4-11	2,145	11.47
株式会社松栄	東京都荒川区東尾久4-20-2	1,001	5.35
篠川宏明	埼玉県久喜市	42	0.22
小川哲英	東京都新宿区	36	0.19
株式会社東京光商事	東京都足立区鹿浜5-19-20	35	0.19
中島和信	東京都渋谷区	34	0.18
永田東	愛知県豊田市	30	0.16
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーMUF G証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4 QA, U.K. (東京都千代田区大手町1-9-7 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー)	30	0.16
計	—	16,724	89.44

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,006千株(5.38%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,006,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 52,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,601,000	17,601	—
単元未満株式	普通株式 41,000	—	—
発行済株式総数	18,700,000	—	—
総株主の議決権	—	17,601	—

② 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式)					
株式会社光製作所	荒川区東尾久4-7-1	1,006,000	—	1,006,000	5.38
(相互保有株式)					
株式会社福島光商事	二本松市渋川字宮前1-1	4,000	—	4,000	0.02
株式会社群馬光商事	館林市松原1-22-10	1,000	—	1,000	0.01
株式会社中央光商事	川口市領家5-1-5	1,000	—	1,000	0.01
株式会社千葉光商事	白井市根1777-1	21,000	—	21,000	0.11
株式会社新潟光商事	新潟市東区木工新町1066	7,000	—	7,000	0.04
株式会社長野光商事	上田市秋和問屋町503	6,000	—	6,000	0.03
株式会社静岡光商事	沼津市足高字尾上191-1	3,000	—	3,000	0.02
株式会社名古屋光商事	愛西市雀ヶ森町開田27	7,000	—	7,000	0.04
株式会社光リビング	足立区小台2-46-1	2,000	—	2,000	0.01
計	—	1,058,000	—	1,058,000	5.66

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、永和監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 1 【四半期財務諸表】

### (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,873,401	1,795,186
受取手形	469,559	414,237
売掛金	688,140	611,116
商品	1,068,656	1,012,576
その他	205,059	119,915
貸倒引当金	△12,115	△10,874
流動資産合計	5,292,703	3,942,158
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	15,811,344	15,740,677
土地	23,404,872	25,159,681
その他（純額）	893,537	572,363
有形固定資産合計	40,109,754	41,472,722
無形固定資産	1,088,990	1,088,691
投資その他の資産		
投資有価証券	502,570	528,032
長期貸付金	929,573	1,084,969
その他	879,702	799,045
貸倒引当金	△290,705	△248,353
投資その他の資産合計	2,021,140	2,163,693
固定資産合計	43,219,885	44,725,108
資産合計	48,512,588	48,667,266
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	285,240	12,996
買掛金	517,920	453,822
未払法人税等	624,931	395,635
賞与引当金	16,244	16,968
その他	526,236	587,122
流動負債合計	1,970,574	1,466,545
固定負債		
退職給付引当金	37,799	24,612
長期預り敷金	5,072,504	5,040,214
固定負債合計	5,110,303	5,064,826
負債合計	7,080,877	6,531,372

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,887,500	3,887,500
資本剰余金	4,947,500	4,947,500
利益剰余金	32,905,251	33,592,115
自己株式	△418,455	△419,121
<b>株主資本合計</b>	<b>41,321,795</b>	<b>42,007,993</b>
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	108,460	125,698
繰延ヘッジ損益	1,454	2,201
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>109,914</b>	<b>127,899</b>
純資産合計	41,431,710	42,135,893
負債純資産合計	48,512,588	48,667,266

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
売上高	4,235,543	4,655,334
売上原価	2,684,151	3,030,785
売上総利益	1,551,391	1,624,548
販売費及び一般管理費	※1 436,876	※1 406,965
営業利益	1,114,515	1,217,582
営業外収益		
受取利息	5,912	5,740
受取配当金	7,675	8,141
貸倒引当金戻入額	—	23,164
その他	3,602	6,686
営業外収益合計	17,189	43,732
営業外費用		
貸倒引当金繰入額	11,710	—
商品廃棄損	1,199	20,258
その他	222	2,651
営業外費用合計	13,131	22,910
経常利益	1,118,573	1,238,405
特別利益		
固定資産売却益	213,374	380
特別利益合計	213,374	380
特別損失		
固定資産売却損	2,579	—
固定資産除却損	6,886	12,719
特別損失合計	9,465	12,719
税引前四半期純利益	1,322,482	1,226,066
法人税、住民税及び事業税	447,860	374,405
法人税等調整額	23,714	32,092
法人税等合計	471,575	406,498
四半期純利益	850,907	819,568

## (3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	1,322,482	1,226,066
減価償却費	395,890	564,499
賞与引当金の増減額（△は減少）	1,965	724
貸倒引当金の増減額（△は減少）	11,710	△43,593
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△23,019	△13,187
受取利息及び受取配当金	△13,587	△13,882
為替差損益（△は益）	△10,471	△4,099
有形固定資産除却損	6,886	12,719
有形固定資産売却損益（△は益）	△210,795	△380
売上債権の増減額（△は増加）	219,957	132,346
たな卸資産の増減額（△は増加）	△82,753	56,080
仕入債務の増減額（△は減少）	105,858	△336,342
長期預り敷金の増減額（△は減少）	516,490	△32,289
その他	39,901	200,330
小計	2,280,515	1,748,992
利息及び配当金の受取額	13,362	13,644
法人税等の支払額	△718,134	△610,222
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,575,742</b>	<b>1,152,413</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△123,000	△123,000
有形固定資産の取得による支出	△2,305,756	△1,946,498
有形固定資産の売却による収入	530,066	480
貸付けによる支出	△373,400	△445,000
貸付金の回収による収入	548,700	289,603
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,723,390</b>	<b>△2,224,414</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△952	△666
配当金の支払額	△132,676	△132,647
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△133,628</b>	<b>△133,313</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,471	4,099
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△270,804	△1,201,215
現金及び現金同等物の期首残高	1,336,155	1,871,345
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,065,351	※1 670,129

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
給料手当	190,021千円	187,399千円
賞与引当金繰入額	19,722千円	16,968千円
退職給付費用	4,013千円	15,462千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金	2,070,066千円	1,795,186千円
預入期間が3か月を越える定期預金	△1,004,715千円	△1,125,056千円
現金及び現金同等物	1,065,351千円	670,129千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	132,721	7.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	132,704	7.50	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(持分法損益等)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
関連会社に対する投資の金額	19,100千円	19,100千円
持分法を適用した場合の投資の金額	672,836千円	676,412千円
	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
持分法を適用した場合の投資利益の金額	10,129千円	5,559千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント(千円)			その他(千円) (注)	合計(千円)
	家具商品部門	不動産賃貸部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,174,509	1,976,177	4,150,686	84,856	4,235,543
セグメント利益又は損失(△)	△51,110	1,244,157	1,193,047	2,571	1,195,618

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントである、プラスチック成型品事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(千円)
報告セグメント計	1,193,047
「その他」の区分の利益	2,571
全社費用(注)	△81,103
四半期損益計算書の営業利益	1,114,515

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント(千円)			その他(千円) (注)	合計(千円)
	家具商品部門	不動産賃貸部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,195,906	2,371,783	4,567,690	87,643	4,655,334
セグメント利益又は損失(△)	△74,323	1,366,511	1,292,188	2,655	1,294,844

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントである、プラスチック成型品事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(千円)
報告セグメント計	1,292,188
「その他」の区分の利益	2,655
全社費用(注)	△77,261
四半期損益計算書の営業利益	1,217,582

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	48円09銭	46円32銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	850,907	819,568
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	850,907	819,568
普通株式の期中平均株式数(株)	17,695,575	17,693,280

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## **第二部 【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

株式会社光製作所  
取締役会 御中

永和監査法人

代表社員 公認会計士 齋 藤 力 夫 印

代表社員 公認会計士 福 島 直 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社光製作所の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第57期事業年度の第2四半期会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社光製作所の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月13日

【会社名】 株式会社光製作所

【英訳名】 HIKARI FURNITURE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 安岡定二

【最高財務責任者の役職氏名】 —

【本店の所在の場所】 東京都荒川区東尾久4丁目7番1号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社光製作所大阪支社  
(大阪府大阪市東住吉区住道矢田5丁目5番27号)

**1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】**

当社代表取締役社長安岡定二は、当社の第57期第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

**2 【特記事項】**

確認に当たり、特記すべき事項はありません。